



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/4 (月)	▲ 200	▲ 31,500	▲ 31,700	国庫短期証券発行償還 (3M) 法人税・消費税・保険掛け	国債補完供給 + 33,100		
3/5 (火)	トン	+ 3,000	+ 3,000				米: ISM非製造業総合景況指数 (2月) 欧: ユーロ圏PPI (1月)
3/6 (水)	トン	▲ 30,000	▲ 30,000	国債発行 (10年)			米: ADP雇用統計 (2月) ページブック公表
3/7 (木)	トン	+ 1,000	+ 1,000				日: 24年春闘の要求集計結果公表・記者会見 米: 貿易収支 (1月) 欧: ECB政策金利発表
3/8 (金)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000	国債発行 (30年)			日: 景気一致指数 (1月) 景気先行CI指数 (1月) 米: 雇用統計 (2月) 欧: ユーロ圏GDP (4Q)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2,700億円減少の536兆9,600億円から始まった。その後、国債買入等の要因により、29日には538兆5,400億円まで増加したものの、3月1日には国債発行を主因に、535兆1,500億円 (速報) まで減少し越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、前営業日比▲0.001%の▲0.006%から始まった。週を通してビッドサイドの資金調達意欲は底堅く、同金利は▲0.006%~▲0.005%で推移した。

ターム物は1W~1M物を中心に▲0.010%~▲0.001%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、8日に景気一致指数・景気先行CI指数 (1月) の公表、海外では5日に米ISM非製造業総合景況指数 (2月)、8日に米雇用統計、ユーロ圏GDP (4Q) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.010 ~ 0.010
2M	0.000 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.03 ~ 0.10

<レポ>

足許GC取引は週を通して▲0.10%近辺で出会い、取引が月末越えとなる28日には▲0.11%まで低下した。SC取引は2年438~454回債、5年149~163回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆2,800億円で、週間償還額約2兆8,800億円を下回った。発行市場は、月末日の大量発行により幅広い業態で発行が見られ、活況となった。発行残高は先週末時点の27兆8,246億円から2月29日時点で26兆5,187億円に減少した。発行レートは、概ね0%近辺からベアリス台前半での出会いが中心であった。26日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.011% (前回0.007%)、平均落札レート0.030% (同0.019%) と按分レート、平均落札レート共に前回比で上昇した。

来週の償還額は、約1兆600億円となっている。発行市場は、ショートターム物を中心に償還と同程度の発行を予想する。発行レートは、金融政策変更の警戒感等から、期越えの案件を中心に上昇余地を探る展開が見込まれる。7日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

1日の3M (1216回債) の入札は、最高落札利回り▲0.0856% (前回債▲0.0986%)、平均落札利回り▲0.0960% (前回債▲0.1120%) となった。来週は、7日に6Mの入札、8日に3Mの入札が予定されている。